

ず～むあっぴ☆

オホーツク

No.9 2

農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点

津別町の水田風景（今井農場）

若い担い手に未来を託す！

今井農場

津別町で唯一、主食用米を生産する今井農場。長年にわたり地域の米づくりを支えてきた農場では、津別町全体で直面している後継者不足という課題に向き合いながら、地域おこし協力隊制度を活用した第三者継承のモデルケースとなるよう、取り組みを進めています。

今井さんから受け継がれる農地と技術・経験をしっかりと継承し、発展させていこうとする二人の若い担い手が新たな一歩を踏み出しています。

町内唯一の稲作農家、その歩み

今井農場の米づくりは昭和40年代に始まりました。当時からこの地域では畑作が中心でしたが、今井さんの父が網走川から水を引く設備を整え、地域に先駆けて本格的な水稻栽培に挑戦。以来、長年にわたり米づくりを続け、現在では津別町で唯一の稲作農家となっています。

また、自ら販路を開拓し、ブランド米「あっぱれ米」を立ち上げたことも今井農場の大きな特徴です。消費者へ直接お米を届ける販売スタイルを確立し、現在では生産した米のほぼ全量を直接販売しているほか、ふるさと納税の返礼品にも選定されています。



先進技術で未来を描く

あべ かずたか

阿部 和貴さん

(地域おこし協力隊1年目)

山口県出身の阿部和貴さんは、中学生の頃から北海道への憧れを抱いていました。その思いを実現するため北海道の大学へ進学。在学中から農業や地域産業に関心を持ち、農業法人でのアルバイトのほか、漁業や林業など幅広い経験を積んできました。

今井農場との出会いもアルバイトで訪れたドローンによる防除作業。このような津別町とのご縁に加えて、北海道で農業に携わりたいという想いと、稲作への関心が積み重なり、地域おこし協力隊への応募を決意しました。

和貴さんの強みは、これまでの経験から得た農業機械への適応力と、新しい技術や仕組みに挑戦する行動力です。農業DXやデータ活用に関心があり、「今井さんの長年の経験をデータとして蓄積し、将来的には栽培管理の遠隔化や自動化につなげたい」と語ります。



阿部和貴さん

安部勇人さん

確かな技術を受け継ぐ

あべ ゆうと

安部 勇人さん

(元・地域おこし協力隊)

横浜市出身の安部勇人さんは、北海道の農業大学を卒業後、地元で農業関連の仕事に従事していました。その後、津別町の米づくりに興味を持ったことがきっかけで

地域おこし協力隊として再び北海道へ。今井農場で米づくりを学び、3年間の任期満了後も農場に残ることを決意しました。現在は今井さんのもとで栽培技術や経営ノウハウを学びながら、農場運営の中心的な役割を担っています。「作った米を顔の見えるお客さんに直接届ける」という今井農場の経営スタイルにも魅力を感じたといいます。

「今井さんから教わったことをしっかりと受け継ぎ、この農場を存続させることが一番大切」と語る勇人さん。津別町における個人農家の第三者継承のモデルになりたいという思いを胸に、日々農作業に励んでいます。

今井さんが築き、異なる個性が支える



今井保徳さん

勇人さんは、今井さんから受け継いだ技術を着実に身につけながら農場を支える「現場の担い手」。一方の和貴さんは、DXやスマート農業など新たな取り組みに挑戦する「発想の担い手」です。性格や得意分野は全く異なる二人ですが、互いの強みを生かしながら農場運営に取り組んでいます。今井さんは、「技術を受け継ぐ人材と、新しい発想を持つ人材、お互いがお互いを補完し合う二人がそろったことは大きな力になる」と期待を寄せています。

津別町で唯一の稲作農家として地域の米づくりを守り続けてきた今井農場。第三者継承を経て、先人たちが築いてきた歴史と想いは、次の世代へと受け継がれようとしています。